３　果樹
１）りんご
（１）防除法（殺菌剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
赤星病	４月上旬	○ 中間宿主（びゃくしん類）上の赤星病を防除する（備考欄）。	○ びゃくしん類にバシタック水和剤７５を冬胞子堆膨潤前に散布する。
	開花直前・落花直後	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ＤＭＩ剤（ＤＭＩ剤の使い方 参照） ＤＭＩ混合剤（ＤＭＩ剤の使い方 参照）	
	落花直後	トレノックスフロアブル チオノックフロアブル	
	随時	○ りんご園周辺にある中間寄主（びゃくしん類）を伐採する。	
うどんこ病	落葉期間(11 月～３月)	○ 被害新梢は、先刈りする。	
	発芽２週間以降	○ 第一次発生による被害部は、見つけ次第摘除する。	
	開花直前～落花 25 日後	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ユニックス顆粒水和剤４７ ＤＭＩ剤（ＤＭＩ剤の使い方 参照） ＤＭＩ混合剤（ＤＭＩ剤の使い方 参照）	
	随時	○ 被害花そう葉、被害新梢を剪除する。	
褐斑病	落葉期間(11 月～３月)	○ 本病の第一次伝染源となる前年の被害落葉を処理する。	
	落花期	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル	
	５月中旬～６月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤８０ セルカディスＤフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル デランフロアブル（右備考参照） ＤＭＩ剤（ＤＭＩ剤の使い方 参照） オンリーワンフロアブル QoI 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤	○ 本病の第一次感染は５月上旬頃から始まり、５月下旬頃最盛期を迎える。前年本病の発生が多かった園地では、５月下旬にオンリーワンフロアブル（ＤＭＩ剤）又はデランフロアブルを散布する。 ○ QoI 剤使用は、年２回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）
	６月下旬～９月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティ水和剤 アリエッティＣ水和剤 オーソサイド水和剤８０ キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤８０ キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 パレード１５フロアブル フルーツガードＷＤＧ QoI 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル２５ ツインバリアー水和剤 ナリアＷＤＧ	○ QoI 剤使用は、年２回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
褐斑病	７月以降	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 パスポート顆粒水和剤 ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル ダイパワー水和剤	○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける。
	６月下旬 ～７月中旬	○ 次の薬剤を散布する。 ＩＣボルドー４１２	
	９月中旬以降（特散）	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストライド顆粒水和剤 ユニックス顆粒水和剤４７	○ ストライド顆粒水和剤は高温時に散布すると落葉を助長するおそれがあるので避ける。
黒星病	落葉期間	○ 被害葉は集めて適正に処分する。	○ 園内を随時巡回して早期発見に努め、被害葉や被害果は直ちに集めて適正に処分する。
	開花期間 ～落花期	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ＤＭＩ剤（ＤＭＩ剤の使い方 参照） ＤＭＩ混合剤（ＤＭＩ剤の使い方 参照）	
	落花期 ～５月下旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル セルカディスＤフロアブル カナメフロアブル フルーツセイバー QoI剤 ファンタジスタ顆粒水和剤	○ QoI剤の使用は、年２回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）
	５月下旬 ～６月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 フルーツセイバー フルーツガードWDG QoI剤 ファンタジスタ顆粒水和剤	
	６月下旬 ～９月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティＣ水和剤 オーソサイド水和剤８０ キノンドーフロアブル キノンドー水和剤８０ ドキリンフロアブル オキシラン水和剤	
	７月	○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤	○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける。
	７月～９月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ベルクートフロアブル ダイパワー水和剤 QoI剤 フリントフロアブル２５ ナリアＷＤＧ	
黒点病	落葉時期 (11~３月)	○ 園地の清掃を行う。	○ 園内を随時巡回して早期発見に努め、被害葉や被害果は直ちに集めて適正に処分する。
	５月中旬 ～６月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 オーソサイド水和剤８０ ダイパワー水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル パスポート顆粒水和剤 フルーツセイバー QoI剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル２５ ファンタジスタ顆粒水和剤 ナリアＷＤＧ	○ 落花15日頃、落花25日頃はサビがでやすいので細霧で散布する。 ○ QoI剤の使用は、年２回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）

病害虫名	防除適期	防　除　方　法	備　考
すす点病 すす斑病	６月～７月	○　次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル	○　散布間隔をあけすぎたり、最終散布を早く切り上げたりしない。
	６月～９月	○　次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティＣ水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤８０ キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤８０ キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 フルーツセイバー QoI 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル２５ ツインバリアー水和剤 ナリアＷＤＧ	○　ストライド顆粒水和剤はりんごに使用する場合、品種によって葉裏が茶褐色をおびることがあるが、通常、実用上の影響は認められていない。但し、樹勢の弱い樹で特に品種「スターキング」では梅雨明け頃の高温時の散布において、落葉を助長するおそれがあるので使用しない。 ○　QoI 剤の使用は、年２回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）
	７月	○　次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤	○　パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後 20 日までの間は散布を避ける。
	７月以降	○　次の薬剤いずれかを散布する。 ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル ダイパワー水和剤	
	随時	○　有袋栽培では、薬剤を十分散布してから直ちに被袋する。 ○　密植園、多湿園では発生が多いので改善する。	
炭　疽　病	６月～７月	○　次の薬剤いずれかを散布する。 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 デランフロアブル	○　ストライド顆粒水和剤はりんごに使用する場合、品種によって葉裏が茶褐色をおびることがあるが、通常、実用上の影響は認められていない。但し、樹勢の弱い樹で特に品種「スターキング」では梅雨明け頃の高温時の散布において、落葉を助長するおそれがあるので使用しない。 ○　QoI 剤使用は、年２回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）。
	６月～９月	○　次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティＣ水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤８０ キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤８０ キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 QoI 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル２５ ツインバリアー水和剤 ナリアＷＤＧ	
	７月	○　次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤	○　パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後 20 日までの間は散布を避ける
	７月以降	○　次の薬剤を散布する。 ダイパワー水和剤	
	６月下旬 ～７月中旬	○　次の薬剤を散布する。 ＩＣボルドー４１２	
	７月～９月	○　次の薬剤を散布する。 ベフキノン水和剤	
	随時	○　りんご園周辺にあるニセアカシア、クルミ類、イタチハギ等を伐採する。	

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
腐らん病	剪定時病患部削り取り直後	○ 次の薬剤いずれかを塗布する。 トップジンMオイルペースト（原液） トップジンMペースト（原液） バッチレート（原液）	
	剪定時病患部削り取り直後	○ 次の薬剤を噴射する。 フランカットスプレー	
	随時	○ 発生園では、病患部の削り取りや被害枝を剪定して適正に処分する。	
	休眠期	○ 次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤	
胴枯病	随時	○ 発生園では、病患部の削り取りや被害枝を剪定して適正に処分する。	
モニリア病	落葉期間(11月～３月)	○ 園内を清掃し、清耕とする。	
	発芽直後～発芽10日後	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストライド顆粒水和剤 パスポート顆粒水和剤	○ 発芽直後の散布は遅れないようにする。
	開花直前	○ 葉腐れ発生園や例年本病が多発する園は上記の防除に引き続き次の薬剤いずれかを散布する。 フルーツセイバー ＤＭＩ剤 アンビルフロアブル	○ アンビルフロアブル以外のＤＭＩ剤はＤＭＩ剤の使い方参照
	随時	○ 葉腐れ、花腐れは第二次伝染源、実腐れ、株腐れは翌年の発生源となるので、地面に落ちないうちに摘みとり適正に処分する。	
紋羽病	植付前	○ 植付予定地を約60cmの深さに耕起、整地し、30×30cmごとに深さ30～40cmの位置に、クロールピクリンを5～10mℓ 注入して直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニールなどで被覆する。処理後20日以上経過してから植え付ける。	○ 被害跡地の消毒は、整地前に被害根を完全に取り除いてから行う。 ○ 処理はできるだけ高温時に行う。 ○ 本病の治療は発病の初期でないと効果が期待できないので、常に検診を行い、早期発見に努める。 ○ 治療樹は、樹勢が回復するまで果実をつけず肥培管理を行う。また、常に検診を行い再発に注意する。
(白紋羽病)	苗木消毒	○ 次の薬剤を根部浸漬し、直ちに植え付ける。 ベンレート水和剤	
	発病初期	○ 露出させた根の病患部を削り取り、落花直後までにフジワン粒剤を1樹当り3～5kg堀り上げた土壌と混和して埋め戻す。	○ フジワン粒剤は苗木に対して移植時に処理すると薬害を生ずる場合があるので、移植1年後以降に処理する。
(紫紋羽病)	発病初期	○ 樹幹周辺部を掘りおこし、被害根を除去した後リゾレックス水和剤を潅注する。汚染土が薬液とよく混じるように埋め戻す。収穫60日前であれば生育期でも処理できる。	
(白紋羽病、紫紋羽病)	発病初期	○ フロンサイドＳＣを樹幹から半径1m程度の範囲に土壌潅注する。 ○ 被害が極めて軽度な場合は、被害根を露出して被害部を除去しそのまま半年～1年放置してから覆土する。	
斑点落葉病	落葉期間(11月～３月)	○ 園地の清掃を行う。 ○ 剪定時に不必要な徒長枝は剪除する。	
	落花期	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ＤＭＩ混合剤（ＤＭＩ剤の使い方参照） トレノックスフロアブル チオノックフロアブル セルカディスＤフロアブル カナメフロアブル	

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
斑点落葉病	５月下旬 ～６月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル パレード１５フロアブル フルーツセイバー QoI 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 ツインバリアー水和剤	○ QoI 剤使用は、年２回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）。
	６月上旬 ～６月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティＣ水和剤 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤８０ フルーツセイバー フルーツガードＷＤＧ QoI 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤	
	６月下旬 ～７月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ４－12 式ボルドー液 ＩＣボルドー４１２ デランフロアブル パスポート顆粒水和剤	○ ボルドー液と他の殺菌剤との交互散布はしない。 ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後 20 日までの間は散布を避ける。
	７月以降	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル ダイパワー水和剤	
	６月下旬 ～９月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティＣ水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤８０ キンセット水和剤８０ キノンドー顆粒水和剤 キノンドーフロアブル キノンドー水和剤８０ ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 ユニックス顆粒水和剤４７ QoI 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル２５ ナリアＷＤＧ	○ ストライド顆粒水和剤はりんごに使用する場合、品種によって葉裏が茶褐色をおびることがあるが、通常、実用上の影響は認められていない。但し、樹勢の弱い樹でとくに品種「スターキング」では梅雨明け頃の高温時の散布において、落葉を助長するおそれがあるので使用しない。 ○ キンセット水和剤８０は薬害軽減のためクレフノンを必ず加用する。
	９月中旬以降（特散）	○ 有袋栽培で果実に発生を認めた場合は、直ちに除袋し、薬剤を散布する。	
	随時	○ 樹冠内部の不必要な徒長枝は剪除する。	
輪紋病	落葉期間 (11 月 ～３月)	○ 剪定枝は園内に放置しない。 ○ 剪定時には被害枝を剪除する。 ○ 3～5 年枝を中心にいぼ枝を削り取る。	
	６～８月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティＣ水和剤 キノンドー顆粒水和剤 キノンドーフロアブル キノンドー水和剤８０ ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 フルーツガードＷＤＧ QoI 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル２５ ツインバリアー水和剤 ナリアＷＤＧ	○ 薬剤は、枝幹、果実に十分にかかるように散布し、剪定した被害枝は園内に放置しない。 ○ QoI 剤使用は、年２回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）。
	７月	○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤	○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後 20 日までの間は散布を避ける。

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
輪紋病	７月以降 ６月下旬 ～７月中旬	○　次の薬剤いずれかを散布する。 シトラーノフロアブル ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル ダイパワー水和剤 ○　次の薬剤を散布する。 ＩＣボルドー４１２	○　シトラーノフロアブルは樹勢が弱い樹では連続散布すると落葉することがあるので注意する。

（りんご）ＤＭＩ剤の使い方

薬剤名		赤星病	うどんこ病	褐斑病	黒星病	モニリア病	斑点落葉病
ＤＭＩ剤	アンビルフロアブル	◎	◎		◎	◎	○
	インダーフロアブル	◎	◎	○	◎	○	○
	オーシャイン水和剤	◎	◎		◎	○	○
	オンリーワンフロアブル		◎	◎	◎	○	○
	サルバトーレＭＥ	◎	◎		◎	○	
	サンリット水和剤	◎	◎	○	◎		○
	スコア顆粒水和剤	◎	◎		◎	○	○
	マネージＤＦ	◎	◎		◎		
	ラリー水和剤	◎			◎		○
ＤＭＩ混合剤	＋マンゼブ						
	ブローダ水和剤	◎	◎		◎	○	○
	スコアＭＺ水和剤	◎	◎		◎		○

◎：効果が高い

注）ＤＭＩ剤及びＤＭＩ混合剤は耐性菌出現防止のため、年間２回以内の使用とする。

1）りんご

（1）防除法（殺虫剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ」等と記載した10a当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
アブラムシ類	4月～9月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ・ユキヤナギアブラムシ アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル コルト顆粒水和剤 サイアノックス水和剤 スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤４０ ダイアジノン水和剤３４ ダントツ水溶剤 テルスター水和剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 モベントフロアブル ・リンゴミドリアブラムシ アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル コルト顆粒水和剤 スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 テルスター水和剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 モベントフロアブル ・リンゴコブアブラムシ アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル コルト顆粒水和剤 スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 モベントフロアブル	○ リンゴコブアブラムシは葉を巻くように加害する。
カメムシ類	7月下旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤４０ ダントツ水溶剤 テルスターフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	
キンモンホソガ 「	越冬期 （12～3月） 4～8月	○ 冬期間、落葉を集めて焼却または埋設処分する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ・成虫発生初期 アクタラ顆粒水溶剤 アディオン水和剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 カスケード乳剤 キラップフロアブル コテツフロアブル サイハロン水和剤 サムコルフロアブル１０ スカウトフロアブル スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 デミリン水和剤 ノーモルト乳剤 パーマチオン水和剤 モスピラン顆粒水溶剤	○ 落葉中の蛹で越冬する。

ギンモンハモグリガ	4～9 月	○　次の薬剤いずれかを成虫発生盛期に散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 カスケード乳剤 キラップフロアブル サムコルフロアブル１０ スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 デミリン水和剤 ノーモルト乳剤 モスピラン顆粒水溶剤	○　発生回数が多いので防除時期に注意する。
コナカイガラムシ類	越冬期 （12～3 月） 5～8 月	○　バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、被害果袋処理などの園内清掃を行う。 ○　マシン油乳剤または石灰硫黄合剤を散布する。 （「落葉果樹」の項 参照） ○　幼虫のふ化期に次の薬剤いずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤４０ ダイアジノン水和剤３４ ダントツ水溶剤 トランスフォームフロアブル	○　薬剤は、枝幹にも十分散布する。
ケムシ類	越冬期 （12～3 月） 4～9 月	○　冬期間、園内を清掃する。 ○　幼虫ふ化初期の群生している枝を除去して焼却す ○　る。 幼虫発生時に次の薬剤いずれかを散布する。 アタブロンＳＣ サムコルフロアブル１０ ダイアジノン水和剤３４ ○　果樹類の登録薬剤を散布してもよい。 （「果樹類」の項 参照）	○　マイマイガ、ウメケムシ、モンクロシャチホコ、ヒメシロモンドクガなど。
シンクイ類	越冬期 （12～3 月） 5～9 月	○　バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、園内清掃を行う。 ○　幼虫期に次の薬剤いずれかを数回散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル１０ スタークル顆粒水溶剤 ダイアジノン水和剤３４ ダントツ水溶剤 バリアード顆粒水和剤 フェニックスフロアブル ディアナ WDG ○　多発園では、殺虫剤散布の補助手段として、コンフュザーＡＡまたはコンフューザーＮ、コンフューザーＲ（性フェロモン剤）を使用してもよい。 （「環境にやさしい防除法　４）性フェロモン剤」の項 参照）	○　付近にももがある場合は芯折れの発生に注意し見つけ次第除去する。
ハダニ類	越冬期 （3 月） 4～8 月	○　次の薬剤のいずれかを散布する。 ・リンゴハダニ越冬卵 マシン油乳剤 石灰硫黄合剤 （「落葉果樹」の項 参照） ・リンゴハダニ アーデント水和剤 オマイト水和剤 カネマイトフロアブル コロマイト乳剤 スターマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニコングフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル バロックフロアブル ピラニカ水和剤 ダニオーテフロアブル	○　マシン油乳剤、石灰硫黄合剤については、風のない暖かい日を選んで散布する。 ○　園地を見守り、ハダニが 1 葉当り 3 頭以上寄生している場合には防除を実施する。 ○　コロマイトは 8 月以降に展着剤を加用せず単用で使用する。 ○　バロックフロアブルをボルドー体系で使用する場合は、ボルドー液散布と 14 日以上の間隔をあけて散布する。 ○　ダニオーテフロアブルは銅剤との混用や銅剤散布後に本剤を散布することは避ける。また、本剤の散布後に銅剤を散布する場合は 10 日以上間隔を開ける。

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
ハダニ類 （続き）		・ナミハダニ アーデント水和剤 オマイト水和剤 カネマイトフロアブル コテツフロアブル コロマイト乳剤 スターマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニコングフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル バロックフロアブル ピラニカ水和剤 マイトクリーン マイトコーネフロアブル ダニオーテフロアブル	○ コテツフロアブル、カネマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル、ダニゲッターフロアブル、ダニサラバフロアブルをボルドー体系で使用する場合は、ボルドー液散布との間隔を 14 日以上あけて散布する。 ○ ナミハダニに対し、ダニトロン、ピラニカ、マイトクリーンは効果が劣る事例が多いので注意する。 ○ ダニオーテフロアブルは銅剤との混用や銅剤散布後に本剤を散布することは避ける。また、本剤の散布後に銅剤を散布する場合は 10 日以上間隔を開ける。
ハマキムシ類	越冬期 （12～3 月） 4 月中旬 ～8 月	○ 剪定時に越冬幼虫、卵を擦りつぶして除去し、粗皮削りを行う。 ○ 若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 アタブロンＳＣ オリオン水和剤４０ サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル１０ スミチオン水和剤４０ ○ 果樹類の登録薬剤を散布してもよい。 （「果樹類」の項 参照）	○ リンゴモンハマキが優占種である。 ○ 同一殺虫剤の連用は避ける。
シンクイガ	6 月中旬 ～9 月上旬	○ 被害果を幼虫脱出前に摘み取り、5 日以上水漬する。被害果処理は必ず実施する。 ○ 産卵期に次の薬剤いずれかを約 10 日間隔で散布する。 アーデント水和剤 アクタラ顆粒水溶剤 アディオン水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 オリオン水和剤４０ キラップフロアブル サイアノックス水和剤 サイハロン水和剤 サムコルフロアブル１０ スカウトフロアブル スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤４０ ダイアジノン水和剤３４ ダントツ水溶剤 テルスターフロアブル パーマチオン水和剤 バリアード顆粒水和剤 フェニックス顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 フェニックスフロアブル ディアナ WDG ○ 激発園では袋掛けを行う。 ○ 多発園では、殺虫剤散布の補助手段として、コンフューザーＡＡまたはコンフューザーＮ、コンフューザーＲ（性フェロモン剤）を使用してもよい。 （「環境にやさしい防除法 ４）性フェロモン剤」の項 参照）） 果樹類の登録薬剤を散布してもよい。 （「果樹類」の項 参照）	○ 薬剤は、果実に十分付着するように散布する。

病 害 虫 名	防除適期	防　　除　　方　　法	備　　考
リンゴワタムシ	6 月～9 月	○　次の薬剤いずれかを散布する。 ダイアジノン水和剤３４ ダントツ水溶剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 マラソン乳剤	
オオタバコガ		○　中齢幼虫期に次の薬剤を散布する。 サムコルフロアブル１０	○発生の多い園地では発生に応じて散布する。
ヒメボクトウ		○　収穫前日までに以下の薬剤を樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する。 ロビンフッド	

（２）農薬の使用方法

〇りんご（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	赤星病	うどんこ病	褐斑病	黒星病	黒点病	すす斑病	すす点病	炭疽病	斑点落葉病	腐らん病	モニリア病	紋羽病	白紋羽病	紫紋羽病	輪紋病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンＭオイルペースト										○						
1	チオファネートメチル	トップジンＭペースト										○						
1	チオファネートメチル	トップジンＭ水和剤											①		○			
1	ベノミル	ベンレート水和剤													○			
7	ピラジフルミド	パレード１５フロアブル			○						○						○	
7	ペンチオピラド	フルーツセイバー				○	○	○			○		○					
11	クレソキシムメチル	ストロビードライフロアブル			○		○	○	○	○	○						○	
11	トリフロキシストロビン	フリントフロアブル２５			○	○	○	○	○	○	○						○	
11	ピリベンカルブ	ファンタジスタ顆粒水和剤			○	○	○				○							
29	フルアジナム	フロンサイドＳＣ													○	○		
9	シプロジニル	ユニックス顆粒水和剤４７		○	○						○							
6	イソプロチオラン	フジワン粒剤													○			
14	トルクロホスメチル	リゾレックス水和剤														○		
3	イミベンコナゾール	マネージＤＦ	○	○		○												
3	オキスポコナゾールフマル酸塩	オーシャイン水和剤	○	○		○					○		○					
3	ジフェノコナゾール	スコア顆粒水和剤	○	○		○					○		○					
3	シメコナゾール	サンリット水和剤	○	○	○	○					○							
3	テトラコナゾール	サルバトーレＭＥ	○	○		○							○					
3	テブコナゾール	オンリーワンフロアブル		○	○	○					○		○					
3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	○	○		○					○							
3	フェンブコナゾール	インダーフロアブル	○	○	○	○												
													○					
3	ヘキサコナゾール	アンビルフロアブル	○	○		○					○		○					
3	ミクロブタニル	ラリー水和剤	○	○		○					○							
19	ポリオキシンＤ亜鉛塩	フランカットスプレー										○						
P7	ホセチル	アリエッティ水和剤			○													
M1	塩基性硫酸銅	ＩＣボルドー４１２			○				○	○							○	
M1	有機銅	キノンドーフロアブル			○	○		○	○	○							○	
M1	有機銅	キノンドー顆粒水和剤			○			○	○	○							○	
M1	有機銅	キノンドー水和剤８０			○	○		○	○	○							○	
M1	有機銅	ドキリンフロアブル			○	○		○	○	○							○	
M1	有機銅	バッチレート										○						
M3	チウラム	チオノックフロアブル	○		○	○	○	○	○	○								
M3	チウラム	トレノックスフロアブル	○		○	○	○	○	○	○								
M3	プロピネブ	アントラコール顆粒水和剤			○	○		○		○								
M4	キャプタン	オーソサイド水和剤８０			○	○	○	○	○	○								
M5	ＴＰＮ	パスポート顆粒水和剤			○	○	○	○	○	○		○					○	

○りんご（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	赤星病	うどんこ病	褐斑病	黒星病	黒点病	すす斑病	すす点病	炭疽病	斑点落葉病	腐らん病	モニリア病	紋羽病	白紋羽病	紫紋羽病	輪紋病	備考
M7	イミノクタジンアルベシル酸塩	ベルクートフロアブル			○	○		○			○						○	
M7	イミノクタジンアルベシル酸塩	ベルクート水和剤			○			○			○						○	
M9	ジチアノン	デランフロアブル			○													
										○	○							
M11	フルオルイミド	ストライド顆粒水和剤			○			○	○	○		○						
11/7	ピラクロストロビン／ボスカリド	ナリアＷＤＧ			○	○	○	○	○	○							○	
M1/M1	水酸化第二銅／有機銅	キンセット水和剤８０								⑤								●薬害軽減のため、クレフノンを必ず加用する。
－	炭酸カルシウム	クレフノン　（注⑤）																
M1/M5	有機銅／ＴＰＮ	シトラーノフロアブル															○	
M1/-	硫酸銅五水塩／生石灰	４－１２式ボルドー液									○							
M3、I:UN/3	マンゼブ／ミクロブタニル	ブローダ水和剤	○	○		○					○		○					
M4/7	キャプタン／ペンチオピラド	フルーツガードＷＤＧ			○	○					○						○	
M4/P7	キャプタン／ホセチル	アリエッティＣ水和剤			○	○		○	○	○							○	
M4/M1	キャプタン／有機銅	オキシラン水和剤			○	○		○	○	○							○	
M7/M4	イミノクタジンアルベシル酸塩／キャプタン	ダイパワー水和剤			○	○	○	○	○	○							○	●使用回数は6回以内(ただし、開花期以降散布は3回以内)
「－、I:UN」	石灰硫黄合剤	石灰硫黄合剤										○						
M3、I:UN	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤			○	○		○	○	○								
M3、I:UN	マンゼブ	ペンコゼブ水和剤			○	○			○	○								
I:8B	クロルピクリン	クロールピクリン												○				
M9/7	ジチアノン	セルカディスＤフロアブル			○	○					○							

①「モニリア病（実腐れ）」での登録。
③ベルクートフロアブル、ベルクート水和剤及びダイパワー水和剤の使用回数は、6回以内(ただし、開花期以降散布は3回以内)。
④ベフラン液剤２５の使用回数は、6回以内（ただし、開花期以降散布は3回以内）での登録。
⑤キンセット水和剤８０は薬害軽減のため、クレフノンを必ず加用する。
（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

（２）農薬の使用方法
○りんご（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ユキヤナギアブラムシ	リンゴミドリアブラムシ	リンゴコブアブラムシ	カメムシ類	キンモンホソガ	ギンモンハモグリガ	クワコナカイガラムシ	ケムシ類	リンゴハダニ	ナミハダニ	ハマキムシ類	シンクイムシ類	モモシンクイガ	ナシヒメシンクイ	リンゴワタムシ	ヒメボクトウ	オオタバコガ	備考
1A	アラニカルブ	オリオン水和剤４０											○	○						防除指針では「ハマキムシ類」、「シンクイムシ類」を記載。
1B	ＣＹＡＰ	サイアノックス水和剤	○										○	○						防除指針では「アブラムシ類」、「ハマキムシ類」、「シンクイムシ類」を記載。
1B	ＭＥＰ	スミチオン水和剤４０	○			○			○				○		○					防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」、「クワコナカイガラムシ」、「ハマキムシ類」、「モモシンクイガ」を記載。
1B	ダイアジノン	ダイアジノン水和剤３４	○						②	③					○	○	○			防除指針では「アブラムシ類」、「クワコナカイガラムシ」、「ケムシ類」、「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」、「リンゴワタムシ」を記載。
1B	マラソン	マラソン乳剤															○			防除指針では「リンゴワタムシ」を記載。
2B	エチプロール	キラップフロアブル	○	○	○	○	○	○							○					防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」、「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」、「モモシンクイガ」を記載。
3A	アクリナトリン	アーデント水和剤	○	○	○		○				④	④		○						防除指針では「アブラムシ類」、「キンモンホソガ」、「ハダニ類」、「シンクイムシ類」を記載。
3A	シハロトリン	サイハロン水和剤					○							○						防除指針では「キンモンホソガ」、「シンクイムシ類」を記載。
3A	トラロメトリン	スカウトフロアブル					○							○						防除指針では「キンモンホソガ」、「シンクイムシ類」を記載。
3A	ビフェントリン	テルスターフロアブル				○								○						防除指針では「カメムシ類」、「シンクイムシ類」を記載。
3A	ビフェントリン	テルスター水和剤	○	○																防除指針では「アブラムシ類」を記載。
3A	フェンプロパトリン	ロビンフッド																○		防除指針では「ヒメボクトウ」を記載。
3A	ペルメトリン	アディオン水和剤					○							○						防除指針では「キンモンホソガ」、「シンクイムシ類」を記載。
4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤	○	○	○	○	○	○						○						防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」、「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」、「シンクイムシ類」を記載。
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー水和剤	○	○	○															防除指針では「アブラムシ類」を記載。
							○	○												防除指針では「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」を記載。
4A	クロチアニジン	ダントツ水溶剤	○	○	○	○	○	○	①					○			○			防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」、「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」、「クワコナカイガラムシ」、「シンクイムシ類」、「リンゴワタムシ」を記載。
4A	ジノテフラン	アルバリン顆粒水溶剤	○	○	○	○	○	○	①					○						防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」、「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」、「クワコナカイガラムシ」、「シンクイムシ類」を記載。
4A	ジノテフラン	スタークル顆粒水溶剤	○	○	○	○	○	○	①					○						防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」、「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」、「クワコナカイガラムシ」、「シンクイムシ類」を記載。
4A	チアクロプリド	バリアード顆粒水和剤	○	○	○									○						防除指針では「アブラムシ類」、「シンクイムシ類」を記載。
																	○			防除指針では「リンゴワタムシ」を記載。
4A	チアメトキサム	アクタラ顆粒水溶剤	○	○	○	○	○	○	①					○						防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」、「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」、「クワコナカイガラムシ」、「シンクイムシ類」を記載。
4C	スルホキサフロル	トランスフォームフロアブル	○	○	○															防除指針では「アブラムシ類」を記載。
									①								○			防除指針では「クワコナカイガラムシ」、「リンゴワタムシ」を記載。
5	スピネトラム	ディアナＷＤＧ					○	○					○							防除指針では「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」、「ハマキムシ類」を記載。
														○						防除指針では「シンクイムシ類」を記載。
6	ミルベメクチン	コロマイト乳剤									④	④								防除指針では「ハダニ類」を記載。
9B	ピリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤	○	○	○															防除指針では「アブラムシ類」を記載。
10B	エトキサゾール	バロックフロアブル									○	○								防除指針では「ハダニ類」を記載。
12C	ＢＰＰＳ	オマイト水和剤									④	④								防除指針では「ハダニ類」を記載。
13	クロルフェナピル	コテツフロアブル					○					○								防除指針では「キンモンホソガ」、「ナミハダニ」を記載。
15	クロルフルアズロン	アタブロンＳＣ								○			○							防除指針では「ケムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
15	ジフルベンズロン	デミリン水和剤					○	○												防除指針では「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」を記載。
15	テフルベンズロン	ノーモルト乳剤					○	○												防除指針では「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」を記載。
15	フルフェノクスロン	カスケード乳剤					○	○												防除指針では「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」を記載。
20B	アセキノシル	カネマイトフロアブル									○	○								防除指針では「ハダニ類」を記載。
20D	ビフェナゼート	マイトコーネフロアブル										○								防除指針では「ナミハダニ」を記載。
21A	テブフェンピラド	ピラニカ水和剤									④	④								防除指針では「ハダニ類」を記載。
21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル									○	○								防除指針では「ハダニ類」を記載。
23	スピロテトラマト	モベントフロアブル	○	○	○															防除指針では「アブラムシ類」を記載。
23	スピロメシフェン	ダニゲッターフロアブル									○	○								防除指針では「ハダニ類」を記載。
23	スピロジクロフェン	エコマイト顆粒水和剤									④	④								防除指針では「ナミハダニ」、「リンゴハダニ」を記載。
25A	シエノピラフェン	スターマイトフロアブル									④	④								防除指針では「ハダニ類」を記載。

○りんご（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ユキヤナギアブラムシ	リンゴミドリアブラムシ	リンゴコブアブラムシ	カメムシ類	キンモンホソガ	ギンモンハモグリガ	クワコナカイガラムシ	ケムシ類	リンゴハダニ	ナミハダニ	ハマキムシ類	シンクイムシ類	モモシンクイガ	ナシヒメシンクイ	リンゴワタムシ	ヒメボクトウ	オオタバコガ	備考
25A	シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル									④	④								防除指針では「ハダニ類」を記載。
25B	ピフルブミド	ダニコングフロアブル									④	④								防除指針では「ハダニ類」を記載。
28	クロラントラニリプロール	サムコルフロアブル１０					○	○		○			○	○						防除指針では「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」、「ケムシ類」、「ハマキムシ類」、「シンクイムシ類」を記載。
																			○	防除指針では「オオタバコガ」を記載。
28	シアントラニリプロール	エクシレルＳＥ					○													防除指針では「キンモンホソガ」を記載。
													○	○						防除指針では「ハマキムシ類」、「シンクイムシ類」を記載。
28	フルベンジアミド	フェニックスフロアブル												○						防除指針では「シンクイムシ類」を記載。
28	フルベンジアミド	フェニックス顆粒水和剤												○						防除指針では「シンクイムシ類」を記載。
28	テトラニリプロール	ヨーバルフロアブル											○	○						防除指針では「ハマキムシ類」、「シンクイムシ類」を記載。
3A/1B	フェンバレレート／ＭＥＰ	パーマチオン水和剤					○							○						防除指針では「キンモンホソガ」、「シンクイムシ類」を記載。
－	(Z)-10-ﾃﾄﾗﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(E、Z)-4、10-ﾃﾄﾗﾃﾞｶﾞｴﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-8-ﾄﾞﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-11-ﾃﾄﾗﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-9-ﾃﾄﾗﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・10-ﾒﾁﾙｰﾄﾞﾃﾞｼﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-9-ﾄﾞﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・11-ﾄﾞﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-11-ﾃﾄﾗﾃﾞｾﾝ-1-ｵｰﾙ・(Z)-13-ｲｺｾﾝ-10-ｵﾝ	コンフューザーＡＡ					⑥								⑥	⑥				防除指針では「キンモンホソガ」、「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」を記載。
－	(Z)-8-ﾄﾞﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-11-ﾃﾄﾗﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-9-ﾃﾄﾗﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・10-ﾒﾁﾙｰﾄﾞﾃﾞｼﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-9-ﾄﾞﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・11-ﾄﾞﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-11-ﾃﾄﾗﾃﾞｾﾝ-1-ｵｰﾙ・(Z)-13-ｲｺｾﾝ-10-ｵﾝ	コンフューザーＮ													⑥					防除指針では「モモシンクイガ」を記載。
																⑥				防除指針では「ナシヒメシンクイ」を記載。
－	(Z)-8-ﾄﾞﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-11-ﾃﾄﾗﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-9-ﾃﾄﾗﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・10-ﾒﾁﾙｰﾄﾞﾃﾞｼﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-9-ﾄﾞﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・11-ﾄﾞﾃﾞｾﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z)-11-ﾃﾄﾗﾃﾞｾﾝ-1-ｵｰﾙ・(Z)-13-ｲｺｾﾝ-10-ｵﾝ	コンフューザーＲ													⑥	⑥				防除指針では「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」を記載。
33	アシノナピル	ダニオーテフロアブル									④	④								防除指針では「ハダニ類」を記載。

①コナカイガラムシ類、又はカイガラムシ類での登録。
②若齢幼虫での登録。
③モンシロドクガ、アメリカシロヒトリでの登録。
④ハダニ類での登録。
⑤ヒメシロモンドクガでの登録。
⑥果樹類での登録。
※ユキヤナギアブラムシ、リンゴミドリアブラムシ、リンゴコブアブラムシは、すべてアブラムシ類での登録。
（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

○りんご（殺ダニ剤の使い方）

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	ナミハダニ			リンゴハダニ			注意事項
			卵	幼若虫	成虫	卵	幼若虫	成虫	
3A	アーデント水和剤	1000倍	△	○	○	△	○	○	①
6	コロマイト乳剤	1000倍	○			○			②
10B	バロックフロアブル	2000倍	○	○	×	○	○	×	① ③
12C	オマイト水和剤	750倍	×	○	○	×	○	○	④
13	コテツフロアブル	2000倍	○			ー			⑤
20B	カネマイトフロアブル	1000倍	○			△	○	○	⑤
20D	マイトコーネフロアブル	1000倍	○			□			① ⑤
21A	ダニトロンフロアブル	1000倍	□			○			① ⑥
21A	ピラニカ水和剤	1000倍							① ⑥
23	ダニゲッターフロアブル	2000倍	○		×	○		×	⑤
23	エコマイト顆粒水和剤	2000倍	○		×	○		×	⑤
25A	ダニサラバフロアブル	1000倍	○			○			⑤
25B	ダニコングフロアブル	2000倍	○			○			
33	ダニオーテフロアブル	2000倍	○			○			⑦

○：効果あり　△：効果がやや低い　□：抵抗性の発達により効果低下の事例が多い　×：効果がない　ー：登録がない

①地域によっては効力低下が認められるので注意する。

②コロマイト乳剤は、8月以降に汎用性展着剤以外の展着剤を加用せず散布する（薬害）。本剤は残効がやや短い。

③バロックフロアブルは、ボルドー液散布前14日以上の間隔をあけて散布する。また、ボルドー液散布後は散布しない。

④オマイト水和剤は、8月以降に散布する。

⑤コテツフロアブル、カネマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル、ダニゲッターフロアブル、エコマイト顆粒水和剤、ダニサラバフロアブルは、ボルドー液との散布間隔を前後14日以上あけて散布する。

⑥ダニトロンフロアブル、ピラニカ水和剤は同一系統とみなし、連用を避け年1回の散布とする。これらの剤は目に刺激性があるので、散布の際、目に入らないよう注意する。

⑦ダニオーテフロアブルは、銅剤との混用はさけ、本剤を散布した後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔を空ける。また、銅剤を散布した後は本剤の使用をさける。

（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器や袋のラベルを確認する。

２）日本なし

（１）防除法（殺菌剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ」等と記載した10a当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
赤星病	４月上旬	○ 中間宿主（びゃくしん類）上の赤星病を防除する（備考欄）。	○ びゃくしん類にバシタック水和剤７５を散布する。
	４月中旬 ～落花直後	○ 次のＤＭＩ剤いずれかを散布する。 アンビルフロアブル インダーフロアブル オンリーワンフロアブル サルバトーレＭＥ サンリット水和剤 スコア顆粒水和剤 トリフミン水和剤 マネージＤＦ ラリー水和剤	○ 赤星病の発生が予想される場合とは、付近にびゃくしん類がある場合、開花直前の散布が順調に行えなかった場合である。 ○ ＤＭＩ剤及びＤＭＩ混合剤は耐性菌出現防止のため、年間２回以内の使用とする。 （耐性菌出現防止）
	落花後～ ５月下旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 チオノックフロアブル トレノックスフロアブル フルーツセイバー カナメフロアブル ＤＭＩ剤 アクサーフロアブル	
	随時	○ なし園周辺にある中間寄主(びゃくしん類)を伐採する	
黒星病	落葉期間 (11~３月)	○ 園地は清掃し、被害枝を剪除する。 ○ 落葉処理を実施する。	
	収穫後 ～開花前	○ ＩＣボルドー４８Ｑを散布する	○ ＩＣボルドー４８Ｑは、高温時に散布すると銅による薬害を生じる恐れがある。
	発芽前	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アルタベールフロアブル 石灰硫黄合剤	
	脱ぽう直前 ～４月中旬	○ 芽基部病斑のある株を摘み取り適切に処分する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ６－１２式ボルドー液 オキシラン水和剤	
	開花直前 ～落花前	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 セルカディスＤフロアブル ＤＭＩ剤 アクサーフロアブル アンビルフロアブル インダーフロアブル スコア顆粒水和剤 トリフミン水和剤 マネージＤＦ ラリー水和剤	○ ＤＭＩ剤及びＤＭＩ混合剤は耐性菌出現防止のため、年間２回以内の使用とする。 （耐性菌出現防止）
	５月中旬 ～７月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤８０ オキシラン水和剤 キノンドーフロアブル キャプレート水和剤 チオノックフロアブル デランフロアブル トレノックスフロアブル ミギワ２０フロアブル カナメフロアブル パレード15フロアブル フルーツセイバー フルーツガードＷＤＧ ベルクート水和剤 ユニックス顆粒水和剤４７ QoI剤 アミスター１０フロアブル スクレアフロアブル ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤	○ QoI剤使用は、年２回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止）

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
黒星病	収穫後 （特散）	○ 黒星病の発生が多い場合は、収穫後に次の薬剤いずれかを散布する。 オーソサイド水和剤８０ ベルクート水和剤	○ 左記の特散を行う場合、混植園では、各薬剤の収穫前日数に注意する。
黒斑病	落葉期間 (11月 ～３月) 発芽前 脱ぽう直前 ～４月中旬 開花直前 ～９月上旬	○ 園地を清掃する。 ○ 被害枝を剪除する。 ○ 次の薬剤を散布する。 アルタベールフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ６－１２式ボルドー液 オキシラン水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティＣ水和剤 アントラコール顆粒水和剤 オキシンドー水和剤８０ オキシラン水和剤 キノンドー水和剤４０ キノンドー水和剤８０ チオノックフロアブル トレノックスフロアブル デランフロアブル ポリベリン水和剤 ユニックス顆粒水和剤４７ ロブドー水和剤 QoI剤 アミスター１０フロアブル ストロビードライフロアブル	○ 有袋栽培では、小袋かけ前に有機銅剤等を十分に散布し直ちに被袋する。 ○ ロブドー水和剤は、連続使用を避け、年間２回以内の使用とする。 ○ QoI剤使用は、年２回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止）
胴枯病	随時	○ 発生園では、病患部の削り取りや、被害枝を剪除して適切に処分する。 ○ 病患部を削り取った切口に次の薬剤いずれかを塗布。 トップジンMペースト バッチレート	○ ’幸水’は胴枯病に弱い品種なので注意する。新水、八雲’、’豊水’は中程度。
白紋羽病	植付時 休眠期	○ トップジンM水和剤に根部を浸漬し、直ちに植え付ける。 ○ 樹幹周辺を掘りおこし、被害根を除去した後、落花20日後までにトップジンM水和剤を灌注する。 ○ フロンサイドＳＣを灌注する。	
輪紋病	落葉期間 (11月 ～３月) ６月中旬 ～８月上旬	○ 剪定枝は園内に放置しない。 ○ 剪定時に被害枝を剪除する。 ○ 枝病斑を削り取りトップジンMペーストを塗布する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 オキシラン水和剤 キノンドー水和剤８０ キャプレート水和剤 ダイパワー水和剤 デランフロアブル ベルクート水和剤 フルーツガードＷＤＧ QoI剤 アミスター１０フロアブル スクレアフロアブル ストロビードライフロアブル ナリアＷＤＧ	○ 薬剤は、枝幹及び果実に十分かかるように散布し、被害枝は園内に放置しない。 ○ QoI剤使用は、年２回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止）

２）日本なし

（１）防除法（殺虫剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ 」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
アブラムシ類	4～7 月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 **・ユキヤナギアブラムシ、ナシノアブラムシ等** モベントフロアブル コルト顆粒水和剤 サイアノックス水和剤 スミチオン水和剤４０ スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤３４ モスピラン顆粒水溶剤 **・ワタアブラムシ、リンゴミドリアブラムシ** モベントフロアブル アドマイヤー水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 コルト顆粒水和剤 サイハロン水和剤 テルスター水和剤 ハチハチフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	
カメムシ類	5～6 月 8～9 月	○ 飛来成虫を早朝捕殺する。 ○ 成虫発生期に次の薬剤いずれかを散布する。 アドマイヤー水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 サイハロン水和剤 スミチオン水和剤４０ モスピラン顆粒水溶剤	○ クサギカメムシが優占種である。山沿いの園に多い。
クワコナカイガラムシ	越冬期 （12~3 月）	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、被害果袋処理などの園内清掃を行う。 ○ マシン油乳剤または石灰硫黄合剤を散布する。 （「落葉果樹」の項を参照）	
ナシグンバイ	3～9 月	○ 幼虫発生初期に次の薬剤いずれかを散布する。 スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤３４ デナポン水和剤５０ ミクロデナポン水和剤８５	
ナシヒメシンクイ （シンクイムシ類）	越冬期 （12~3 月） 6 月中旬～ 8 月下旬	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、園内清掃を行う。 ○ 幼虫発生期に次の薬剤いずれかを散布する。 オリオン水和剤４０ サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル１０ スミチオン水和剤４０ スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤３４ ディアナＷＤＧ フェニックスフロアブル ヨーバルフロアブル テッパン液剤 エクシレル SE	○ スミチオンは早生赤に薬害があるので使用しない。

病害虫名	防除適期	防　除　方　法	備　考
ハダニ類	休眠期 発芽前 5月上旬～9月上旬	**・リンゴハダニの越冬卵** ○　次の薬剤いずれかを散布する。 アルタベールフロアブル マシン油乳剤　（「落葉果樹」の項 参照） 石灰硫黄合剤　（「落葉果樹」の項 参照） **・リンゴハダニの発生初期** ○　次の薬剤いずれか散布する。 コロマイト水和剤 スターマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニコングフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル ピラニカ水和剤 ダニオーテフロアブル ○　**・ナミハダニ、カンザワハダニの発生初期** 次の薬剤いずれかを散布する。 カネマイトフロアブル コテツフロアブル コロマイト水和剤 スターマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニコングフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル バロックフロアブル ピラニカ水和剤 マイトコーネフロアブル ダニオーテフロアブル	○　同一殺ダニ剤の連用はしない。 ○　ダニトロン、サンマイト、ピラニカは眼に入らないようにする。 ○　バロックフロアブルをボルドー一体系で使用する場合は、ボルドー一液散布と14日以上の間隔をあけて散布する。 ○　マイトコーネフロアブル、ダニゲッターフロアブル、ダニサラバフロアブルをボルドー一体系で使用する場合、ボルドー一液との間隔を14日以上あけて散布する。 ○　カネマイトフロアブルは満開後30日までは葉に薬害が出るおそれがあるので使用しない。 ○　ナミハダニに対し、サンマイト、ダニトロン、ピラニカ、は効果が劣る事例が多いので注意する。 ○　ダニオーテフロアブルは銅剤との混用や銅剤散布後に本剤を散布することは避ける。また、本剤の散布後に銅剤を散布する場合は10日以上間隔を開ける。
ニセナシサビダニ	発生初期 (5～7月)	○　　ハチハチフロアブルを散布する。	
ハマキムシ類	越冬期 (12~3月) 4～8月	○　剪定時には越冬幼虫、卵の除去、粗皮削りを行う。 ○　若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 オリオン水和剤４０ サイアノックス水和剤 スミチオン水和剤４０ スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤３４ デナポン水和剤５０ ヨーバルフロアブル テッパン液剤 ○　果樹類の登録薬剤を散布してもよい。 （「果樹類」の項 参照）	○　スミチオンは、薬害のおそれがあるので、落花後1か月間は使用しない。 ○　ＮＡＣ剤は、5月中は使用しない。 ○　同一殺虫剤の連用は避ける。

（２）農薬の使用方法
〇日本なし（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	赤星病	黒星病	黒斑病	胴枯病	白紋羽病	輪紋病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンＭペースト				○		○	
1	チオファネートメチル	トップジンＭ水和剤					○		
							○		
7	イソピラザム	ネクスターフロアブル		○					
7	インピルフルキサム	カナメフロアブル	○	○					
7	ペンチオピラド	フルーツセイバー	○	○					
11	アゾキシストロビン	アミスター１０フロアブル		○	○			○	
11	クレソキシムメチル	ストロビードライフロアブル		○	○			○	
11	ピリベンカルブ	ファンタジスタ顆粒水和剤		○					
11	マンデストロビン	スクレアフロアブル		○				○	
29	フルアジナム	フロンサイドＳＣ					○		●白紋羽病（土壌潅注）のみ採用
9	シプロジニル	ユニックス顆粒水和剤４７		○	○				
3	イミベンコナゾール	マネージＤＦ	○	○					
3	ジフェノコナゾール	スコア顆粒水和剤	○	○					
3	シメコナゾール	サンリット水和剤	○						
3	テトラコナゾール	サルバトーレＭＥ	○						
3	テブコナゾール	オンリーワンフロアブル	○						
3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	○	○					
3	フェンブコナゾール	インダーフロアブル	○	○					
3	ヘキサコナゾール	アンビルフロアブル	○	○					
3	ミクロブタニル	ラリー水和剤	○	○					
M1	塩基性硫酸銅	ＩＣボルドー４８Ｑ		○					
M1	有機銅	オキシンドー水和剤８０			○				
M1	有機銅	キノンドーフロアブル		○					
M1	有機銅	キノンドー水和剤４０			○				
M1	有機銅	キノンドー水和剤８０			○			○	
M1	有機銅	バッチレート				○			
M3	チウラム	チオノックフロアブル	○	○	○				
M3	チウラム	トレノックスフロアブル	○	○	○				
M3	プロピネブ	アントラコール顆粒水和剤		○	○				
M4	キャプタン	オーソサイド水和剤８０		○					
M7	イミノクタジンアルベシル酸塩	ベルクート水和剤		○				○	
M9	ジチアノン	デランフロアブル		○	○			○	
11/7	ピラクロストロビン／ボスカリド	ナリアＷＤＧ						○	
2/M1	イプロジオン／有機銅	ロブドー水和剤			○				
3/7	ジフェノコナゾール／フルキサピロキサド	アクサーフロアブル		○					
NC/M1	マシン油／有機銅	アルタベールフロアブル		○	○				
M1/-	硫酸銅五水塩／生石灰	６－１２式ボルドー液		○	○				
M4/1	キャプタン／ベノミル	キャプレート水和剤		○				○	
M4/7	キャプタン／ペンチオピラド	フルーツガードＷＤＧ		○				○	
M4/P7	キャプタン／ホセチル	アリエッティＣ水和剤			○				
M4/M1	キャプタン／有機銅	オキシラン水和剤		○	○			○	
M7/M4	イミノクタジンアルベシル酸塩／キャプタン	ダイパワー水和剤						○	

○日本なし（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	赤星病	黒星病	黒斑病	胴枯病	白紋羽病	輪紋病	備考
「-、I:UN」	石灰硫黄合剤	石灰硫黄合剤		○					
M9/7	ジチアノン/ゼミウム	セルカディスＤフロアブル		○					
3/7	ジフェノコナゾール/ゼミウム	アクサ―フロアブル	○						
52	イピフルフェノキン	ミギワ20フロアブル		○					
7(C2)	ピラジフルミド	パレード15フロアブル		○					

（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

（２）農薬の使用方法
○日本なし（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ユキヤナギアブラムシ	ナシノアブラムシ	ワタアブラムシ	リンゴミドリアブラムシ	カメムシ類	ナシグンバイ	シンクイムシ類	ナシヒメシンクイ	リンゴハダニ	ナミハダニ	カンザワハダニ	ニセナシサビダニ	ハマキムシ類	ヒメボクトウ	備考
1A	ＮＡＣ	デナポン水和剤５０						①							○		防除指針では「ナシグンバイ」、「ハマキムシ類」を記載。
1A	ＮＡＣ	ミクロデナポン水和剤８５						○									防除指針では「ナシグンバイ」を記載。
1A	アラニカルブ	オリオン水和剤４０							○						○		防除指針では「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
1B	ＣＹＡＰ	サイアノックス水和剤	○						○						○		防除指針では「アブラムシ類」、「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。 防除指針では「アブラムシ類」、「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
1B	ＭＥＰ	スミチオン水和剤４０	○				○			②					○		防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」、「ナシヒメシンクイ」、「ハマキムシ類」を記載。
1B	ＭＥＰ	スミチオン乳剤	○					○	○						○		防除指針では「アブラムシ類」、「ナシグンバイ」、「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
1B	ダイアジノン	ダイアジノン水和剤３４	○					○	○						○		防除指針では「アブラムシ類」、「ナシグンバイ」、「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
3A	シハロトリン	サイハロン水和剤			○		○										防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」を記載。
3A	ビフェントリン	テルスター水和剤			○												防除指針では「アブラムシ類」を記載。
3A	フェンプロパトリン	ロビンフット														○	防除指針では「ヒメボクトウ」を記載。
4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤	○		○		○										防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」を記載。
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー顆粒水和剤			○		○										防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」を記載。
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー水和剤			○		○										防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」を記載。
5	スピネトラム	ディアナＷＤＧ							○								防除指針では「シンクイムシ類」を記載。
6	ミルベメクチン	コロマイト水和剤									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
9B	ピリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤	○		○												防除指針では「アブラムシ類」を記載。
10B	エトキサゾール	バロックフロアブル										③					防除指針では「ナミハダニ」、「カンザワハダニ」を記載。
13	クロルフェナピル	コテツフロアブル										○					防除指針では「ナミハダニ」、「カンザワハダニ」を記載。
20B	アセキノシル	カネマイトフロアブル										③					防除指針では「ナミハダニ」、「カンザワハダニ」を記載。
20D	ビフェナゼート	マイトコーネフロアブル										③					防除指針では「ナミハダニ」、「カンザワハダニ」を記載。
21A	テブフェンピラド	ピラニカ水和剤									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
23	スピロテトラマト	モベントフロアブル	○		○									○			防除指針では「アブラムシ類」、「ニセナシサビダニ」を記載。
23	スピロメシフェン	ダニゲッターフロアブル									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
25A	シエノピラフェン	スターマイトフロアブル									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
25A	シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
25B	ピフルブミド	ダニコングフロアブル									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
28	クロラントラニリプロール	サムコルフロアブル１０							○								防除指針では「シンクイムシ類」を記載。
28	フルベンジアミド	フェニックスフロアブル							○								防除指針では「シンクイムシ類」を記載。
28	テトラニリプロール	ヨーバルフロアブル							○						○	○	防除指針では「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」、「ヒメボクトウ」を記載。
28	シクラニリプロール	テッパン液剤							○						○		防除指針では「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
21A,F:39	トルフェンピラド	ハチハチフロアブル			○									○			防除指針では「アブラムシ類」、「ニセナシサビダニ」を記載。
F:NC/M1	マシン油／有機銅	アルタベールフロアブル									③						防除指針では「リンゴハダニ」を記載。
33	アシノナピル	ダニオーテフロアブル									③	③					
28	シアントラニリプロール	エクシレルSE							○	②							

①グンバイムシ類での登録。
②シンクイムシ類での登録。
③ハダニ類での登録。
※すべてアブラムシ類での登録。
（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので，使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

３）も　も
（１）防除法（殺菌剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ 」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防　除　方　法	備　考
黒　星　病	落葉期間 (11 月 ～３月)	○　剪定時に被害枝を剪除する。	
	５月中旬 ～７月上旬	○　次の薬剤いずれかを散布する。 イオウフロアブル サルファーゾル トレノックスフロアブル ダコニール１０００ デランフロアブル チオノックフロアブル ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル フルーツセイバー ＤＭＩ剤 アンビルフロアブル インダーフロアブル オーシャイン水和剤 オンリーワンフロアブル QoI 剤 アミスター１０フロアブル ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 ナリアＷＤＧ	○　果実によく付着するように散布する。 ○　サルファーゾル、イオウフロアブルは、高温時（28℃以上）には薬害のおそれがあるので使用しない。 ○　ＤＭＩ剤の使用は年２回以内とし、連用しない（耐性菌出現防止）。 ○　QoI 剤の使用は、年２回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）
縮　葉　病	発 病 前 (３月中旬 ～下旬)	○　次の薬剤を散布する。 キノンドー水和剤４０ オキシンドー水和剤８０ ドキリンフロアブル	○　温暖無風の日を選び小枝の先まで十分にかかるように散布する。
	随　時	○　被害葉は、見つけ次第摘み取り、適切に処分する。	
せん孔細菌病	落葉期間 (11 月 ～３月)	○　被害枝を剪除する。	
	開花直前	○　コサイド３０００を散布する。	
	落花後 ～５月下旬	○　次の薬剤いずれかを散布する。 アグリマイシン－１００ デランフロアブル マイコシールド	○　落花直後から 10 日ごとに散布する。 ○　アグリマイシン－１００とマイコシールドは連用を避ける。
	収 穫 後	○　収穫後に次の薬剤いずれかを散布する。 ４－１２式ボルドー液 ＩＣボルドー４１２ コサイド３０００	○　収穫後のコサイド３０００散布は、薬害軽減のため、炭酸カルシウム水和剤を加用して９月以降に散布する。
	随　時	○　園地に防風垣などを設ける。 ○　適切な肥培管理を行って樹勢の回復を図る。	
灰星病	落葉期間 (11 月 ～３月)	○　園地を清掃する。 ○　被害枝を剪除する。	○　「すもも」などの被害果も伝染源となるので注意する。
	６月下旬 ～８月下旬	○　次の薬剤いずれかを散布する。 ダコニール１０００ ダコレート水和剤 ダコレックス水和剤 トップジンM水和剤 フルーツセイバー ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 パスワード顆粒水和剤	○　雨が多いと発病が増加するで、散布間隔を短縮する。 ○　トップジンM水和剤、ベンレート水和剤、ロブラール水和剤は連用を避ける。

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
灰星病 （続き）	６月下旬 ～８月下旬	○　次の薬剤いずれかを散布する。 ＤＭＩ剤 アンビルフロアブル インダーフロアブル オーシャイン水和剤 オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 QoI 剤 アミスター１０フロアブル ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 ナリアＷＤＧ ○　園内や集果所では、被害果を見つけ次第、集めて土中に埋める。	○　ＤＭＩ剤の使用は年２回以内とし、連用しない（耐性菌出現防止）。 ○　QoI 剤の使用は、年２回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）
ホモプシス腐敗病	落葉期間 (11 月 ～３月) ６月下旬 ～８月上旬	○　被害枝を剪除する。 ○　次の薬剤いずれかを散布する。 ダコレート水和剤 ダコレックス水和剤 トップジンM水和剤 ベルクートフロアブル ベンレート水和剤 QoI 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 ナリアＷＤＧ	○　トップジンM水和剤、ベンレート水和剤は、連用を避ける。（耐性菌出現防止） ○　QoI 剤の使用は、年２回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）

３）も　も
（１）防除法（殺虫剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ 」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防　除　方　法	備　考
アブラムシ類	4～6 月	○　発生初期に次の薬剤いずれかを散布する。 サイアノックス水和剤 ダイアジノン水和剤３４ モスピラン顆粒水溶剤	○　カワリコブアブラムシ、モモコフキアブラムシが主体である。 ○　ネクタリンでは品種により葉に薬害を生ずることがあるので注意する。
果実吸蛾類	8～9 月	○　夜間捕殺を行う。 ○　被害の激しい園では、白熱灯または黄色灯の電灯照明により防除する。	○　アケビコノハ、アカエグリバが主要種である。
カメムシ類	5～6 月	○　飛来成虫を早朝捕殺する。 ○　次の薬剤いずれかを散布する。 アディオン乳剤 スミチオン水和剤４０ モスピラン顆粒水溶剤	○　クサギカメムシが優占種である。山沿いの園に多い。
クワシロカイガラムシ	越冬期 (3 月)	○　発芽前にマシン油乳剤か石灰硫黄合剤を散布する。 （「落葉果樹」の項 参照）	○　マシン油乳剤の散布は、虫をこすり落とした後に行えば効果が高い。
コスカシバ	休眠期 (10~3 月) 生育期 (7～9 月)	○　幼虫を刺殺する。 ○　休眠期間中に次の薬剤いずれかを枝幹に十分散布する。 ガットキラー乳剤 サッチューコートＳ トラサイドＡ乳剤 ラビキラー乳剤 ○　多発園では、スカシバコンを使用してもよい。 （「環境にやさしい防除法　４）性フェロモン剤」の項 参照）	○　幼虫の刺殺は、雨上がりに虫糞を目あてに行う。
ナシヒメシンクイ	越冬期 (12~3 月) 5～9 月	○　バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、園内清掃を行う。 ○　幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル１０ ダイアジノン水和剤３４ フェニックスフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	○　芯折れを見つけ次第除去する。
ハダニ類	4～8 月	○　発生初期に次の薬剤いずれかを散布する。 オマイト水和剤 カネマイトフロアブル スターマイトフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル ピラニカ水和剤 マイトコーネフロアブル	○　ダニトロンフロアブル、サンマイト水和剤、ピラニカ水和剤は眼に入らないように注意する。

モモシンクイガ（シンクイムシ類）	6～8 月	○　被害果を幼虫脱出前に摘み取り、5 日以上水漬する。 　被害果処理は必ず実施する。 ○　産卵期に次の薬剤いずれかを散布する。 　アディオン乳剤 　サイアノックス水和剤 　サムコルフロアブル１０ 　スミチオン水和剤４０ 　ダイアジノン水和剤３４ 　モスピラン顆粒水溶剤 　フェニックスフロアブル ○　多発園では袋掛けを実施する。	
モモノゴマダラノメイガ	越冬期 （12~3 月）	○　バンド誘殺、粗皮削りを行う。 ○　冬期間園内の清掃を行う。	
モモハモグリガ	越冬期 （12~3 月） 5～8 月 （収穫後）	○　越冬期間中に園内の清掃を行う。 ○　発生期間中に落葉があれば、集めて焼却処分する。 ○　若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 　アディオン乳剤 　サムコルフロアブル１０ 　モスピラン顆粒水溶剤 　フェニックスフロアブル 　ヨーバルフロアブル	○　発生回数が多いので注意する。

（２）農薬の使用方法
〇もも（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	黒星病	縮葉病	せん孔細菌病	灰星病	ホモプシス腐敗病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤				○	○	
1	ベノミル	ベンレート水和剤				○	○	
7	ペンチオピラド	フルーツセイバー	○			○		
11	アゾキシストロビン	アミスター１０フロアブル	○			○		
11	クレソキシムメチル	ストロビードライフロアブル	○			○		
11	ピリベンカルブ	ファンタジスタ顆粒水和剤	○			○	○	
41	オキシテトラサイクリン	マイコシールド			○			
2	イプロジオン	ロブラール水和剤				○		
3	オキスポコナゾールフマル酸塩	オーシャイン水和剤	○			○		
3	ジフェノコナゾール	スコア顆粒水和剤				○		
3	テブコナゾール	オンリーワンフロアブル	○			○		
3	フェンブコナゾール	インダーフロアブル	○			○		
3	ヘキサコナゾール	アンビルフロアブル	○			○		
17	フェンヘキサミド	パスワード顆粒水和剤				○		
M1	塩基性硫酸銅	ＩＣボルドー４１２			○			
M1	水酸化第二銅	コサイド３０００			○			
M1	有機銅	オキシンドー水和剤８０		○				
M1	有機銅	キノンドー水和剤４０		○				
M1	有機銅	ドキリンフロアブル		○				
M1	有機銅	バッチレート	※①					●傷口のゆ合促進として使用する。
M3	チウラム	チオノックフロアブル	○					
M3	チウラム	トレノックスフロアブル	○					
M5	ＴＰＮ	ダコニール１０００	○			○		
M7	イミノクタジンアルベシル酸塩	ベルクート水和剤	○			○		
M7	イミノクタジンアルベシル酸塩	ベルクートフロアブル	○			○	○	
M9	ジチアノン	デランフロアブル	○		○			
1/M5	ベノミル／ＴＰＮ	ダコレート水和剤				○	○	
11/7	ピラクロストロビン／ボスカリド	ナリアＷＤＧ	○			○	○	
41/25	オキシテトラサイクリン／ストレプトマイシン硫酸塩	アグリマイシン－１００			○			
2/M5	プロシミドン／ＴＰＮ	ダコレックス水和剤				○	○	
M1/-	硫酸銅五水塩／生石灰	４－１２式ボルドー液			○			
M2, I:UN	硫黄	イオウフロアブル	○					
M2, I:UN	硫黄	サルファーゾル	○					

①傷口のゆ合促進として使用する。
（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので，使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

（２）農薬の使用方法

〇もも（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	アブラムシ類	カメムシ類	コスカシバ	ハダニ類	モモシンクイガ	ナシヒメシンクイ	モモハモグリガ	備考
1B	ＣＹＡＰ	サイアノックス水和剤	〇				①	①		防除指針では「アブラムシ類」、「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」を記載。
1B	ＭＥＰ	ガットキラー乳剤			〇					防除指針では「コスカシバ」を記載。
1B	ＭＥＰ	サッチューコートＳ			〇					防除指針では「コスカシバ」を記載。
1B	ＭＥＰ	スミチオン水和剤４０		〇			①			防除指針では「カメムシ類」、「モモシンクイガ」を記載。
1B	ダイアジノン	ダイアジノン水和剤３４	〇				①	①		防除指針では「アブラムシ類」、「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」を記載。
3A	ペルメトリン	アディオン乳剤		〇			①		〇	防除指針では「カメムシ類」、「モモシンクイガ」、「モモハモグリガ」を記載。
4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤	〇	〇			①	①	〇	防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」、「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」、「モモハモグリガ」を記載。
12C	ＢＰＰＳ	オマイト水和剤				〇				防除指針では「ハダニ類」を記載。
20B	アセキノシル	カネマイトフロアブル				〇				防除指針では「ハダニ類」を記載。
20D	ビフェナゼート	マイトコーネフロアブル				〇				防除指針では「ハダニ類」を記載。
21A	テブフェンピラド	ピラニカ水和剤				〇				防除指針では「ハダニ類」を記載。
21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル				〇				防除指針では「ハダニ類」を記載。
25A	シエノピラフェン	スターマイトフロアブル				〇				防除指針では「ハダニ類」を記載。
25A	シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル				〇				防除指針では「ハダニ類」を記載。
28	クロラントラニリプロール	サムコルフロアブル１０					①	①	〇	防除指針では「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」、「モモハモグリガ」を記載。
28	シアントラニリプロール	エクシレルＳＥ					①		〇	防除指針では「モモシンクイガ」、「モモハモグリガ」を記載。
28	テトラニリプロール	ヨーバルフロアブル							〇	防除指針では「モモハモグリガ」を記載。
28	フルベンジアミド	フェニックスフロアブル					①	①	〇	防除指針では「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」、「モモハモグリガ」を記載。
1B/1B	ＭＥＰ／ＰＡＰ	ラビキラー乳剤			〇					防除指針では「コスカシバ」を記載。
1B/1B	マラソン／ＭＥＰ	トラサイドＡ乳剤			〇					防除指針では「コスカシバ」を記載。
－	(E,Z)-ｵｸﾀﾃﾞｶ-2,13-ｼﾞｴﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(E,Z)-ｵｸﾀﾃﾞｶ-3,13-ｼﾞｴﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z,Z)-ｵｸﾀﾃﾞｶ-3,13-ｼﾞｴﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ	スカシバコンＬ			②					防除指針では「コスカシバ」を記載。

①シンクイムシ類での登録。

②果樹類での登録。

（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので，使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

４）ぶ ど う

（１）防除法（殺菌剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ 」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防　除　方　法	備　考
褐　斑　病	落葉期間 (11 月 ～３月)	○　園内を清掃する。	
	５月上旬 ～収穫後	○　次の薬剤いずれかを散布する。 オーソサイド水和剤８０ ジマンダイセン水和剤	
黒とう病	落葉期間 (11 月 ～３月)	○　前年の被害つる、被害果粒は集めて適切に処分する。	
	休眠期	○　次の薬剤いずれかを散布する。 パスポート顆粒水和剤 ベンレートＴ水和剤２０	
	５月上旬 ～収穫後	○　次の薬剤いずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 ＤＭＩ剤 マネージＤＦ	○　ＤＭＩ剤の使用は年２回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止）
さ び 病	落葉期間 (11 月 ～３月)	○　園内を清掃する。	
	７月上旬 ～収穫後	○　次の薬剤いずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 フルーツセイバー ＤＭＩ剤 オンリーワンフロアブル	○　ＤＭＩ剤の使用は年２回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止）
灰色かび病	落葉期間 (11 月 ～３月)	○　被害枝を剪除する。	○　スイッチ顆粒水和剤及びパスワード顆粒水和剤は、果実肥大中期（あずき大）以降（有袋栽培の場合は袋掛け前まで）の散布は避ける。 （果粉の溶脱防止）
	発芽前 ～開花期	○　次の薬剤いずれかを散布する。 オーソサイド水和剤８０ トップジンM水和剤	
	開花直後 ～落弁期	○　次の薬剤いずれかを散布する。 ゲッター水和剤 スイッチ顆粒水和剤 パスワード顆粒水和剤	○　パスワード顆粒水和剤は、スチューベン等一部品種で展葉直後の若葉に薬害の恐れがあるので注意する。
	開花期 ～幼果期	○　次の薬剤いずれかを散布する。 フルーツセイバー ロブラール水和剤 ＤＭＩ剤 オンリーワンフロアブル QoI 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤	○　ＤＭＩ剤の使用は年２回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止） ○　QoI 剤使用は、年２回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止）
晩　腐　病	落葉期間 (11 月 ～３月)	○　前年の被害つるや巻きひげなどは、剪除し集めて適切に処分する。	○　アミスター10 フロアブル及びホライズンドライフロアブルは、果実肥大中期（あずき大）以降（有袋栽培の場合は袋掛け前まで）の散布は避ける。 （果粉の溶脱防止）
	休眠期	○　次の薬剤を散布する。 デランフロアブル パスポート顆粒水和剤	
	５月下旬 ～８月中旬	○　次の薬剤いずれかを散布する。 オーソサイド水和剤８０ QoI 剤 アミスター１０フロアブル ホライズンドライフロアブル ○　被害粒は見つけ次第摘み取る。	○　QoI 剤使用は、年２回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止）

４）ぶ ど う

（１）防除法（殺虫剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ 」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防　　除　　方　　法	備　　考
コガネムシ類成虫	7～8 月	○ 成虫発生期に次の薬剤のいずれかを 250ℓ 散布する。 スミチオン水和剤４０	○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
フタテンヒメヨコバイ	7～8 月	○ 幼虫発生期に次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤４０	○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
ブドウスカシバ	5～6 月	○ つるに食入した幼虫を刺殺する。 ○ 成虫発生期に次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤４０	○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
ブドウトラカミキリ	越冬期 （12~3 月） 発芽前 （4 月） 7～8 月	○ 越冬期及び育成期に幼虫を刺殺する。 ○ 剪定枝を焼却する。 ○ 次の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。 ガットキラー乳剤 ○ 次の薬剤を枝幹へ散布する。 スミチオン水和剤４０	○ 枝梢内に幼虫で越冬し、幼虫食入部は黒変する。 ○ ぶどうでは対象種が特定されているので注意する。 ○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
トラカミキリムシ	越冬期 （12~3 月） 発芽前 （4 月）	○ 越冬期及び育成期に幼虫を刺殺する。 ○ 剪定枝を焼却する。 ○ 次の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。 サッチューコートＳ	○ 枝梢内に幼虫で越冬し、幼虫食入部は黒変する。 ○ ぶどうでは対象種が特定されているので注意する。

（２）農薬の使用方法
〇ぶどう（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	褐斑病	黒とう病	さび病	灰色かび病	晩腐病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤				〇		
7	ペンチオピラド	フルーツセイバー			〇	〇		
11	アゾキシストロビン	アミスター１０フロアブル					〇	
11	ピリベンカルブ	ファンタジスタ顆粒水和剤				〇		
2	イプロジオン	ロブラール水和剤				〇		
3	イミベンコナゾール	マネージＤＦ		〇				
3	テブコナゾール	オンリーワンフロアブル			〇	〇		
17	フェンヘキサミド	パスワード顆粒水和剤				〇		
M4	キャプタン	オーソサイド水和剤８０	〇			〇	〇	
M5	ＴＰＮ	パスポート顆粒水和剤		〇			〇	
M9	ジチアノン	デランフロアブル					〇	
10/1	ジエトフェンカルブ／チオファネートメチル	ゲッター水和剤				〇		
9/12	シプロジニル／フルジオキソニル	スイッチ顆粒水和剤				〇		
27/11	シモキサニル／ファモキサドン	ホライズンドライフロアブル					〇	
M3/1	チウラム／ベノミル	ベンレートＴ水和剤２０		〇				
M3, I:UN	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤	〇	〇	〇			

（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので，使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

（２）農薬の使用方法
〇ぶどう（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	コガネムシ類	フタテンヒメヨコバイ	ブドウスカシバ	ブドウトラカミキリ	トラカミキリムシ	備考
1B	ＭＥＰ	ガットキラー乳剤				〇		防除指針では「ブドウトラカミキリ」を記載。
1B	ＭＥＰ	サッチューコートＳ					〇	防除指針では「トラカミキリムシ」を記載。
1B	ＭＥＰ	スミチオン水和剤４０	①	〇	〇	〇		防除指針では「コガネムシ類」、「フタテンヒメヨコバイ」、「ブドウスカシバ」、「ブドウトラカミキリ」を記載。
			①	〇	〇	〇		防除指針では「コガネムシ類」、「フタテンヒメヨコバイ」、「ブドウスカシバ」、「ブドウトラカミキリ」を記載。

①コガネムシ類成虫での登録。
（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので，使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

５）う　め

（１）防除法（殺菌剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ 」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防　除　方　法	備　考
かいよう病	展葉初期 ～５月中旬	○　次の薬剤を散布する。 アグリマイシン－１００ スターナ水和剤	○　アグリマイシン－１００は「収穫 90 日前まで」の登録なので、使用時期に注意する。
黒　星　病	落葉期間 (11 月 ～３月) ５月上旬 ～６月中旬	○　被害枝を剪除する。 ○　次の薬剤いずれかを散布する。 イオウフロアブル コロナフロアブル サルファーゾル ＤＭＩ剤 オーシャイン水和剤	○　ＤＭＩ剤の使用は年２回以内とし、連用しない。 （耐性菌出現防止）
変　葉　病	生育期間 随時	○　被害部を見つけ次第、土中に埋める等して処分する。 ○　果樹園周辺の中間宿主（ヤマカシュウ）を伐採する。	

５）う　め

（１）防除法（殺虫剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ 」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防　　除　　方　　法	備　　考
アブラムシ類	4～6 月	○　次の薬剤いずれかを散布する。 アディオン水和剤 スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤３４ マラソン乳剤	○　ダイアジノン水和剤３４は「小粒核果類（すももを除く）」として登録されている。
アメリカシロヒトリ	4～5 月 8～9 月	○　幼虫ふ化初期の群生している枝は、除去して焼却する。 ○　若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤３４	○　ダイアジノン水和剤３４は「小粒核果類（すももを除く）」として登録されている。
カイガラムシ類	越冬期 （3 月） 5～8 月	○　発芽前にマシン油乳剤か石灰硫黄合剤を散布する。 （「落葉果樹」の項を参照） ○　幼虫定着期に次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤	
コスカシバ	休眠期 （10~4 月）	○　幼虫を刺殺する。 ○　多発園ではスカシバコン L を使用してもよい。 （「環境にやさしい防除法　４）性フェロモン剤」の項を参照）	○　幼虫の刺殺は、雨上がりに虫糞をめあてに行う。

（２）農薬の使用方法
〇うめ（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	かいよう病	黒星病	備考
31	オキソリニック酸	スターナ水和剤	①		●小粒核果類（すももを除く）での登録
3	オキスポコナゾールフマル酸塩	オーシャイン水和剤		〇	
41/25	オキシテトラサイクリン／ストレプトマイシン硫酸塩	アグリマイシン－１００	〇		
M2, I:UN	硫黄	イオウフロアブル		〇	
M2, I:UN	硫黄	コロナフロアブル		〇	
M2, I:UN	硫黄	サルファーゾル		〇	

①小粒核果類（すももを除く）での登録。
（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので，使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認す

（２）農薬の使用方法

〇うめ（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	アブラムシ類	アメリカシロヒトリ	ウメシロカイガラムシ	コスカシバ	備考
1B	ＭＥＰ	スミチオン乳剤	〇	〇			防除指針では「アブラムシ類」、「アメリカシロヒトリ」を記載。
1B	ダイアジノン	ダイアジノン水和剤３４	③	③			防除指針では「アブラムシ類」、「アメリカシロヒトリ」を記載。
1B	マラソン	マラソン乳剤	〇		②		防除指針では「アブラムシ類」、「ウメシロカイガラムシ」を記載。
3A	ペルメトリン	アディオン水和剤	〇				防除指針では「アブラムシ類」を記載。
－	(E,Z)-ｵｸﾀﾃﾞｶ-2,13-ｼﾞｴﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(E,Z)-ｵｸﾀﾃﾞｶ-3,13-ｼﾞｴﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ・(Z,Z)-ｵｸﾀﾃﾞｶ-3,13-ｼﾞｴﾆﾙ=ｱｾﾀｰﾄ	スカシバコンＬ				④	防除指針では「コスカシバ」を記載。

①小粒核果類での登録。

②カイガラムシ類での登録。

③小粒核果類（すももを除く）での登録。

④果樹類での登録。

（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので，使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

６）か　き

（１）防除法（殺菌剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ 」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防　除　方　法	備　考
うどんこ病	落葉期間 (11 月 ～３月) ５月中旬 ～６月中旬	○　園内を清掃する。 ○　トップジンM水和剤を散布する。	
落葉病 (角斑落葉病、円星落葉病)	落葉期間 (11 月 ～３月) 6 月上旬 ～8 月中旬	○　園内を清掃する。 ○　肥培管理に注意し樹勢を旺盛にする。 ○　次の薬剤いずれかを散布する。 　チオノックフロアブル 　トレノックスフロアブル 　キノンドーフロアブル 　キノンドー水和剤４０ 　ゲッター水和剤 　ＤＭＩ剤 　　オンリーワンフロアブル 　QoI 剤 　　アミスター10 フロアブル	○　ＤＭＩ剤の使用は年２回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止） ○　QoI 剤使用は、年２回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止）
炭　疽　病	休眠期 ６月～９月	○　次の薬剤いずれかを散布する。 　２－１０式ボルドー液 　キノンドーフロアブル 　キノンドー水和剤４０ 　トップジンM水和剤 　ベンレート水和剤	○　トップジンM水和剤、ベンレート水和剤は連用を避ける。（耐性菌出現防止）

６）か　き

（１）防除法（殺虫剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ 」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防　除　方　法	備　考
イラガ類	6 月下旬～ 8 月上旬	○　次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤４０	
カイガラムシ類	越冬期 （12~4 月）	○　バンド誘殺、粗皮削りを行う。 ○　発芽前に次の薬剤のいずれかを散布する。 マシン油乳剤９５ 石灰硫黄合剤 （「落葉果樹」の項 参照）	
カキクダアザミウマ	展葉期 （5 月上旬）	○　次の薬剤いずれかを散布する。 オルトラン水和剤 パダン水溶剤	
カキノヘタムシガ	越冬期 （12~3 月） 6～8 月	○　バンド誘殺、粗皮削りを行う。 ○　次の薬剤いずれかを 2～3 回幼虫期に散布する。 スミチオン水和剤４０ パダン水溶剤	
チャノキイロアザミウマ	6～7 月	○　樹の仕立、環境を改善し、通風、採光を図る。 ○　発生最盛期に次の薬剤いずれかを散布する。 オルトラン水和剤 パダン水溶剤	○　枝梢内に幼虫で越冬し、幼虫食入部は黒変する。

（２）農薬の使用方法
〇かき（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	うどんこ病	炭疽病	落葉病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤	〇	〇		
1	ベノミル	ベンレート水和剤		〇		
11	アゾキシストロビン	アミスター１０フロアブル			〇	
3	テブコナゾール	オンリーワンフロアブル			〇	
M1	有機銅	キノンドーフロアブル		〇	〇	
M1	有機銅	キノンドー水和剤４０		〇	〇	
M3	チウラム	チオノックフロアブル			〇	
M3	チウラム	トレノックスフロアブル			〇	
10/1	ジエトフェンカルブ／チオファネートメチル	ゲッター水和剤			〇	
M1/-	硫酸銅五水塩／生石灰	２－１０式ボルドー液		〇		
52	イプフルフェノキン	ミギワ20フロアブル		〇		

（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので，使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

（２）農薬の使用方法

〇かき（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	イラガ類	カキクダアザミウマ	カキノヘタムシガ	チャノキイロアザミウマ	備考
1B	ＭＥＰ	スミチオン水和剤４０	〇		〇		防除指針では「イラガ類」、「カキノヘタムシガ」を記載。
1B	アセフェート	オルトラン水和剤		〇		〇	防除指針では「カキクダアザミウマ」、「チャノキイロアザミウマ」を記載。
14	カルタップ	パダン水溶剤		①	〇	①	防除指針では「カキクダアザミウマ」、「チャノキイロアザミウマ」、「カキノヘタムシガ」を記載。

①アザミウマ類での登録。

（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので，使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

７）いちじく

（１）防除法（殺菌剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ 」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
疫病	６月～７月	○ 園内の排水を良くする。 ○ 敷きわらをする。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 Ｚボルドー コサイド３０００	○ 両剤とも日照不足、多雨時には薬害のおそれがあるので使用しない。 ○ コサイド３０００は薬害軽減のため、必ずクレフノンを加用する。
株枯病	収穫後～休眠期 随時	○ トップジンＭオイルペーストを主幹部に塗布する。 ○ 挿し穂は、無病園から採取する。 ○ 発病園では、穂木採取や苗木育成を絶対に行わない。 ○ 発病株は、早期に抜根して処分する。	

７）いちじく

（１）防除法（殺虫剤）

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ 」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防　　除　　方　　法	備　　考
カミキリムシ類（クワカミキリ、キボシカミキリ）	休眠期 産卵期 ～幼虫食入 成虫発生初期	○ 幼虫を刺殺する。 ○ クワカミキリの産卵期（8～9 月）に産卵痕を木づちなどで打ち、卵をつぶす。 ○ バイオリサ・カミキリを処理する。 （「環境にやさしい防除法　３）生物農薬（天敵製剤、微生物防除剤）」の項 参照）	○ 白塗剤等を使用すれば産卵防止効果がある。

（２）農薬の使用方法
〇いちじく（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	疫病	株枯病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンＭオイルペースト		〇	
M1	塩基性硫酸銅	Ｚボルドー	〇		
M1	水酸化第二銅	コサイド３０００	①		コサイド３０００は薬害軽減のため、クレフノンを必ず加用する。
－	炭酸カルシウム	クレフノン（注①）			

①コサイド３０００は薬害軽減のため、クレフノンを必ず加用する。

（２）農薬の使用方法

〇いちじく（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	カミキリムシ類	備考
3A	フェンプロパトリン	ロビンフッド	①	防除指針では「カミキリムシ類」を記載。
－	ボーベリア ブロンニアティ	バイオリサ・カミキリ	①	防除指針では「カミキリムシ類」を記載。

①果樹類での登録。